



能登空港で使用されているベンチ



プランター兼用ベンチ

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

全国木材組合連合会会長賞

有限会社エム工房（和歌山県）

デザイン性のある
間伐材ベンチを製作

「有限会社 エム工房」では、「間伐材でもここまでデザイン性のある製品ができる」というベンチを目指して製品を開発。美術館や博物館のロビー、駅や空港、公園など公共スペースに置いて、周囲のデザインとマッチするベンチです。実際、能登空港（石川県）、鳥丸記念公園（滋賀県）、JR亀岡駅（京都府）などで使用されています。間伐材の自然な色ややさしい手触りは、「ほっとする」場所として利用者に好評です。

このベンチの特徴としては、座面を座り心地が良いように半径一メートルの曲面にしていること、デザインはシンプルでありながら人の目に止まりやすいものとなっていること、どんな既設ベンチでもその脚部をそのまま利用して座面だけ簡単に取り替えられることなどがあります。

製品開発は「有限会社 エム工房」が、製造は森林組合が行っており、市場調査の結果も良好なことから、森林組合と協同で全国的な営業展開を図ることとしています。

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

全国森林組合連合会会長賞

光葉スチール株式会社（長野県）

ロッカーの扉などに
カラマツ間伐材を使用

「光葉スチール株式会社」は、長野県に立地する企業として地場産の間伐材を製品に取り入れ、販売する取組を地道に続けていけば、いずれは森林整備に結びつくのではないかと考えました。そこで、ロッカーの扉にカラマツの集成材とスチールとを組み合わせて使用することにより、今までのスチールロッカーとは違った雰囲気、カラマツの木目を生かしたデザイン性

に特色があり、二〇〇七年に試作品を製作、二〇〇八年四月から本格的に販売しています。

本製品の開発は長野県森林組合連合会と連携。また、カラマツ集成材の供給は、長野県森林組合連合会と集成材工場、加工工場が連携し、安定的に納入する体制を確立しています。「光葉スチール株式会社」では、カラマツ以外にも間伐材であれば用途開拓をしたいと考えています。



カラマツの木目が暖かい雰囲気を醸し出しています

審査員奨励賞

愛媛県森林組合連合会 木材加工センター（愛媛県）

間伐小径木を活用した ダムの木製残存型枠

愛媛県では、県民共有の財産である森林を健全な姿で次世代に引き継ぐ、を基本理念に、環境資源としての森林の再生や木材の利用推進を図っています。こうした中、「愛媛県森林組合連合会木材加工センター」では、間伐小径木を有効活用した治山ダム用の木製残存型枠を、平成一八年に開発しました。木製残存型枠は、間伐小径木から製材される九センチ角材といっ

た一般的な規格の製品を使用することにより、安定的な供給と価格が確保できます。また、角材を積み上げて型枠とする簡単な作業であり、残存方式であるため型枠の撤去作業が不要となることなどから、通常工法のコストとほとんど差がなく施工できます。さらに上流側の土砂とダムの隙間に入って型枠を撤去するという危険な作業も回避できます。なお、木製残存型枠を一〇〇㎡使用すると一・二haの間伐につながると試算されています。



施工状況



治山ダム用の木製残存型枠

「暮らしに役立つ間伐材利用」部門

審査員奨励賞

特定非営利活動法人 21世紀の森林づくり（福岡県）

木製ダボで組み立てた オール木質スギパレット

「特定非営利活動法人21世紀の森林づくり」では、福岡県リサイクル総合研究センター、福岡県森林林業技術センターと共同で「オール木質スギパレット」を開発しました。

オール木質スギパレットは、従来の釘打ちの代わりに、家具などで使われる木製ダボで組み立てたもので、①外材に比べたわみやすく釘の利きがあまいスギが、外材釘打ちパレットと同等以上の強度をもつ、②釘の浮き上がりがなく

積載商品を傷つけにくい、③釘を使用しないため廃棄が比較的容易という特徴があります。また、オール木質スギパレットは、一メートル程度の部材からなるため、丸太を短く切ること、曲がりの大きな丸太でも利用可能であり、間伐により生産される大曲材も有効に利用できます。「特定非営利活動法人21世紀の森林づくり」では、加工コストを下げるため、短尺丸太用の製材ラインやダボ穴あけ装置の開発も行いました。



オール木質スギパレット



木製ダボ

